

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
ウエルはにーばん		2026年 1月 30日				
	チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。				6ヶ所のエリアに、子どもたちが分散するように、個別にスケジュール化している	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。				課題の取り組みごとに必要な大人の人数が違う為、子供1人に対して、大人1人または大人2人に対応しているケースもある	子供の状態（自傷他害、奇声、パニックなど）によっては足りないと思うこともある。常勤ばかりでパートさんが少ない為、必要クラスへ追加配置が難しい
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。				構造化しており、各エリアで取り組みを区別やコーナーごとの仕切りあり。視覚支援も多く、絵カードでのコミュニケーション支援もしている	個人ごとに1から作る（絵カードでのコミュニケーション支援で使用するカード類など）教材は、準備に相当時間を要す為、準備時間の確保を検討したい
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。				日々の清掃マニュアルもあり、詳細な衛生管理を行っている。日々の唾液に限らず、嘔吐、血液、尿など、各種対応できるように研修も行っている	多忙になると、整理整頓や掃除が不十分と感じるところもあり、行き届くようにしたい
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。				個別の支援が受けられるよう訓練室やリラクスルームが子供の希望に合わせて利用できる	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。				週1回の昼礼にて、業務改善の話合いが設けられている PDCAの取り組みは社員を中心に実践している	パートさんまでの個別指導はできていない現状はある為、必要に応じて、検討したい
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。				常に真摯に受け止め、早期改善、日々向上を、職員皆で目指している	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。				週1回の昼礼、スタッフリーダーとの打ち合わせで、意見を述べるができる また半年に1回役員面談もあり、普段言えない話なども聞いてもらう機会がある	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。				大きなトラブルに至っていない為、今現在は取り入れる必要性を感じていない	今後、第三者による外部評価が必要になってきたときには取り入れたい
10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。				法定研修だけでなく、業務研修はかなり多くある為、ビデオによる研修、チューター制度、外部研修への参加、相談役の配置など様々な取り組みをしている	外部研修への参加希望が重なる場合に、職員不足になる為、平等な研修参加の保障について検討したい	

適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		多種多様なプログラムがある為、ケースごとに随時研修し、サービス提供できるよう準備を進めている	配置職員によって、提供できるか否かになってくるものもある為、ご案内できるクラスや職員研修の進め方も随時検討したい
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成しているか。		様々なアセスメントツールを活用しながら、主観ではなく、客観的指標をもとに課題を立案するように努めている	
	13	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		ケース会議、モニタリング内容の共有、原案立案後会議などを通して、全ケース、職員間で話し合いをしながら、計画の立案を行なっている	
	14	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		各エリアに個別支援計画を利用者全員分配置しており、日々療育提供中にいつでも計画に沿った支援を提供できるよう準備をしている	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		不適応行動が続く場合は、行動同期診断スケールなども用い、行動を分析し、適応行動を増やせるように支援をしている	診断を、法人内の公認心理師のみが行なっていることもあり、結果が出るまでに時間を要することはある
	16	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）には、児童発達支援（放課後等デイサービス）ガイドラインの「児童発達支援（放課後等デイサービス）の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		5領域すべてを包括的に支援するべく、皆支援計画に盛り込んだ計画内容であり、家庭でも実践できるよう具体的に記載するよう努めている	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		各担当者ごとに前回の様子から次の提供課題を検討したり、日々のスケジューリングを話し合いながら検討したりしている	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。		6ヶ所の各エリアを基本的に全て体験いただいております、設定活動は、前4回重ならないよう課題内容を調整しながら参加を促している	自由遊び場面では、様々な玩具の設定はしていても個人の好きな遊びを中心にコミュニケーションスキルの向上を目指す為、客観的に見ると同じ活動に見えてしまう
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成し、支援が行われているか。		1日のスケジュールに、必ず個別と小集団に参加してもらうようにしており、子どもによっては個別の時間を長くしたり、小集団の時間を長くしたりなど調整している	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。		子ども毎に作成した周知事項に目を通し、職員間で声かけするように心がけている	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		片付けをしながら、その日の様子を話し合い、重要箇所については記録を取り、後日会議の場を設け、話し合うようにしている		
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。		各担当者が日々全ケース記録を取り、内容を管理者が確認し、支援内容の検証、改善点は指導するなど、必要に応じ対応している		
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。		4～6ヶ月以内に1回のモニタリングの場を設けており、30分前後、ゆっくり時間をかけてお話を伺い、見直し検討している		

関係機関や保護者との連携	24	【放デイのみ】放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。							基本的に全てにおいてスキルの向上を目指す支援を提供しており、創作活動においては年間計画も立案し、楽しめるよう準備をしている	保護者のニーズと放デイ4つの基本活動が一致しない場合の取り組みの設定については迷いが出る為、モニタリング時の課題への促し方を検討したい
	25	【放デイのみ】子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。							玩具は基本的に棚に置いてあり、自由に遊べる環境の設定になっており、かつ、設定活動でも適切に拒否をすることで課題変更の機会も設けている	自己選択自己決定とやりたい放題の違いを、明確に把握できていない職員もいる為、職員研修の機会をさらに増やし、子どもたちの適切な学びを保障できるように努めたい
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。							関係機関連携には、基本的に管理者・児童発達支援管理責任者が参画している	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。							必要や希望に応じて、随時連携や参画している	
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。							法人代表が広く専門知識を有していることもあり、代表によるスーパーバイズが基本となっている	今後、法人代表で解決しない案件が出てくる場合には、センターとの連携も検討したい
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等、または放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。							近所の公園へよくでかけており、今年はスキップガーデンへのお出かけもしている	交流会のような行事設定は検討していないが、日々の遊びの場が広がるよう検討したい
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。							連絡帳の活用と送迎時のお話の機会は大切にしている 送迎を利用している場合は、ご希望に応じて、LINEでも様子の共有をしている	
	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。							0～1歳児は親子参加が基本で、療育的関わりを学ぶ機会を大切にしている 2歳児以上はご家族さんのご意向に沿、随時ペアトレを提供している	親子参加以外の、研修会や勉強会などは、個別案件のみで実施している為、数名参加の勉強会の提供も検討したい
	32	【児発事業所・児発センターのみ】併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。							園側の希望に応じ、情報共有や各種連携会議への積極的参加をしている	
	33	【児発事業所・児発センターのみ】就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。							希望に応じて、情報提供書の作成をして情報共有をしたり、連携会議に参画したりしている	
34	【児発センターのみ】地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。									
35	【児発センターのみ】質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。									
36	【児発センターのみ】(自立支援)協議会・こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。									

関係機関や保護者との連携	37	【放デイのみ】学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。								急な送迎時間の変更にも、できるだけ対応調整するようにしている	送迎先に子供がいない時や乗車に時間がかかり他の便が遅れる時など、当日連絡つかない状況でのイレギュラーな対応について、今後どこまで対応できるか難しさを感じる
	38	【放デイのみ】就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。								持参の文書確認や不明点あれば連絡を入れるなど、必要に応じて連携をしている	
	39	【放デイのみ】学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。								保護者の意向に応じて、情報提供書の作成や終了時評価を文書にて提供している	
	40	【放デイのみ】（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。								可能な限り、協議会へ参加しており、得た情報共有も職員間で行っている	
保護者への説明等	41	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。								運営規定や支援プログラムなどは、送り迎えに来ていただく場所のいつでも手の届くところへ設置しており、自由に閲覧できるようにしている	
	42	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。								支援計画作成の度に、毎回お話の機会を設けており、ゆっくりと意見を述べていただけるようにしており、計画内容に反映させるよう努めている	
	43	「児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。								可能な限り口頭説明をしており、希望に応じて、LINEなどの個別メッセージで説明をしている	
	44	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。								家族支援も大切にしており、お話のご希望があれば、極力ご意向の時間を設け、お話を伺うようにしている	
	45	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。								保護者さん同士での交流の機会は「びあティータイム」と称し、年に1～2回開催している	兄弟間交流の機会は設けていない現状の為、今後検討していきたい
	46	こどもや保護者からの相談や苦情、申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や苦情、申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。								苦情やご意見については、真摯に検討し、必要に応じて改善、報告するようにしている	できること、できないこと、については、一線を引かせていただいているところもある為、家庭の困り感にできるかぎり寄り添えるよう、今後も真摯に検討していきたい
	47	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。								必要な情報は、掲示やホームページに掲載している。頻度は少ないが、InstagramやXへの発信もしている。	全員登録とは促していないこともあり、認知も少ないと思われる為、登録の促し等も検討したい
	48	個人情報の取扱いに十分留意しているか。								個人名の記載は、記載場所や記載方法まで最小限に限定されており、書類の持ち出しは一切禁じられており、厳重に漏洩のないよう管理をしている。	
	49	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。								筆談、イラスト、写真、現物など、様々なツールや支援方法を用いて、意思疎通ができるよう、また、口頭だけでなく、控えをLINEや連絡帳に記録するよう努めている	

	50	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。						保護者同士の集まり「ひびあティータイム」には、利用中の方に限らず、どなたでも参加いただけるよう案内している	
	51	【放デイのみ】家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。						相談事には、管理者や児発管だけに限らず、必要に応じて公認心理師なども関与し、親身に相談対応をしている	
非常時等の対応	52	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。						各種マニュアルは整備され訓練も実施しており、受け入れ時の棚に自由に閲覧できるように設置もされている	
	53	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。						策定し話し合い研修等の実施を行なっている	
	54	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。						服薬や予防接種の状況、発作の有無、脱臼の有無など、利用開始時に書面に記載いただき管理している	
	55	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。						食べ物の提供は基本のおこなっていないが、アレルギーの状況管理は利用開始時に書面に記載いただき管理しており、変更時随時報告をいただいている	
	56	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。						就業時に皆、危険予知訓練に参加している 安全点検月1回実施、安全計画に係る研修なども、実施している	
	57	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。						災害時の避難先や引き渡しなどの状況などについて、文書にて説明をしている	
	58	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。						日々業務日誌へ記録し、週1回の昼礼や早期介入が必要なケースについては、随時改善提案を話し合う場を設けている	
	59	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。						虐待防止マニュアルの策定や虐待防止研修、事例検討など、実施している パニック対応も3～5分以内の職員間の交代実施	良かれと思って間違った支援にならないよう、定期的な意見交換をしていく
60	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。						身体拘束は実施しない原則の為、今後もし必要なケースが出てくる場合は、保護者の同意を得ることとしている	他害行動の激しい子どもの対応時に、職員にとっても過度な負担にならないよう保護者と協働して支援できるよう検討していきたい	